

R4 全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (音 楽)

◎・・・優 ○・・・良 △・・・可 コメント可

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	改善状況
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの演奏技能を十分定着させる指導が必要である。 ・リズム打ちや手遊びなどを多く取り入れた指導が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏技能の定着を図るため、スモールステップでの授業展開を工夫する。 ・みんなの前で歌ったりリズム打ちをしたりすることで、みんなのできる喜びを多く体験させる。 ・鍵盤ハーモニカの指の動きを声に出しながら繰り返し行う。 	◎ ○ ◎
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現や友達との関わり遊び等、多様な音楽活動を行い、音楽に親しみ伸び伸び表現する指導を多く取り入れる。 ・鍵盤ハーモニカの技能面に、個人差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声や発音の仕方に気を付けて、きれいな声で歌えるよう指導していく。 ・技能面では、スモールステップで授業展開をし、友達同士の教え合いも取り入れる。 	○ ○
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの技能の上達に、時間を要する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習時間を多く設け、一人一人の基本技能の定着を確認する。 ・一人ずつ発表する時間を設けることで、自分の音を確認できるようにする。 	○ ○
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーに関して、技能の上達に時間を要する児童がいる。 ・音符の長さ、記号の意味に関して随意復習していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに教え合いながら、練習できる環境をつくる。 ・音符の長さやリズムの違いを、楽曲と照らし合わせたり身体表現したりしていく。 	○ ○
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能に課題がある児童がいる。 ・課題に対して積極的に取り組む児童と消極的な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が手本を示すなどして、技術の向上を図る。 ・互いに聴き合い、意見交換する時間を増やす。 ・互いに教え合える環境づくりを常に心がける。 	◎ ○ ○
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱指導においては、意欲的に取り組み2部合唱を楽しんでいるが、互いの音を聞いてよりよいハーモニーをつくるのが難しい部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が手本を示すなどして、技術の向上を図る。 ・課題の提示の仕方や選曲を工夫し、興味や意欲がわくようにする。 	◎ ○